

「広域支援・受援体制整備に係る モデル図上訓練」の実施報告

広域支援・受援体制整備に係るモデル図上訓練について(四国ブロック)

<四国ブロック(徳島県) : 平成29年11月14日>

南海トラフ地震の際の津波を想定し、図上訓練

○訓練方法

支援側・受援側に分かれて、発災から1週間後及び1か月後の対応や連携を確認しながら、訓練の検証を行った。

○課題及び目標

●被災自治体

【課題】 必要とする支援内容は何か？

支援を受ける際に、課題となることは何か？

【目標】 ・受援体制の整備(人・物・場所など内容を整理し、支援を要請する)

→情報の一元化、支援団体・ボランティアの整理と窓口、県内寄付金の受付

●支援自治体

【課題】 被災が大きい自治体へ、どんな支援ができるか？

支援する際に課題になることはないか？

【目標】 ・支援体制の整備(支援要請事項について検討、対応可能な事項を選択)

●獣医師会

【課題】 獣医師会としてどのような支援ができるか？

他県の獣医師会等の応援等についてどのように調整するか？

【目標】 ・避難所等における健康相談及び負傷動物等の治療と保護の実施

●ボランティア団体・個人等

【課題】 どんな救護活動ができるか？

救護活動の際に課題になることは何か？

【目標】 ・ペットフードや用品の支援

・迷子ペットや保護情報についての動物愛護推進員や登録ボランティアの活用



○今後の取組

◆市町村、獣医師会等関係団体、ボランティア等と連携した実動訓練の実施

◆市町村の避難所運営、支援・受援体制整備に係る支援協力、助言

参加者：四国ブロック自治体(香川県、高松市、愛媛県、高知県)、兵庫県、徳島県内市町村(徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、牟岐町、美波町、海陽町、松茂町、北島町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町)、近隣獣医師会(徳島県、香川県)、ペットフード関係企業(株式会社貴志商店)、日本動物愛玩動物協会徳島県支所、日本ペット文化学院徳島校、徳島県動物愛護推進員、環境省

専門家：一般財団法人ペット災害対策推進協会 沼田 一三氏
公益社団法人日本動物福祉協会 山口 千津子氏

広域支援・受援体制整備に係るモデル図上訓練について(九州ブロック)

<九州ブロック（熊本県）：平成29年11月22日>

平成28年熊本地震を振り返り、図上訓練

○訓練方法

受援側・支援側・県外獣医師会に分かれて、発災から応急仮設住宅入居までを振り返り各時点での対応課題を明らかにした。

○課題

<発災初期（発災日～2週間）>

●受援側（熊本県、熊本市、熊本県獣医師会）

熊本地震ペット対策救護本部の速やかな設置もしくは（仮）対策本部の設置検討と九・山協定に基づく支援準備・要請
ペット災対協との連携、義援金口座の開設。必要支援物資の把握と必要な要請

●支援側（福岡県、大分県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、山口県、福岡市、下関市、北九州市）

九山協定に基づく支援要請に応じた支援物品などの調達及び平常時からの支援可能物資の把握
避難所等の状況把握巡回のための行政獣医師の派遣（環境省からの要請による）

●県外獣医師会（九州地方獣医師会、福岡VMAT）

初期の情報収集と発信、一時預かりの開始、飼い主相談窓口の設置、避難所巡回の継続

<発災後期（2週間～4ヶ月）>

●受援側

長期一時預かりの窓口、熊本地震ペット救援センターの開所、動物愛護推進員との連携
応急仮設住宅のペット飼養について市町村との調整、必要支援物資の把握と必要な要請

●支援側

支援物品などの調達、熊本地震ペット救援センターの関係機関との調整

●県外獣医師会

一時預かりの継続、応急仮設住宅入居に関する相談



参加者：九州ブロック自治体（山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、下関市、北九州市、福岡市、久留米市、長崎市、佐世保市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市）
九州地方獣医師会（山口県、福岡県、北九州市、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）、福岡VMAT、環境省
専門家：一般財団法人ペット災害対策推進協会 沼田 一三氏
公益社団法人日本動物福祉協会 山口千津子氏

広域支援・受援体制整備に係るモデル図上訓練について(中部ブロック)

<中部ブロック(三重県) : 平成29年12月22日>

南海トラフ地震を想定し、図上訓練

○訓練方法

支援側・受援側に分かれて、発災3日後及び発災1週間～10日後を想定してグループワークを行い発表を行った。

○到達目標

●被災県

災害時ペット対策本部の立上げと救援要請・市町との連絡調整

【課題】 情報収集と発信(方法・対象)

【目標】 ・速やかに状況を把握し、地元機能の復旧が開始できるか

・得られた情報を整理し、必要な支援を外部(他府県や国等)に要請できるか(受援体制整備)

・市からの要望に対応できるか(支援体制整備)

・関連団体(獣医師会等)とのすみやかな連携が図れるか

●被災市町

避難所でのペット受入に関する県等との連絡調整

【課題】 情報収集と発信(方法・対象)

【目標】 ・速やかに状況を把握し、地元機能の復旧が開始できるか

・得られた情報を整理し、必要な支援を県に要請できるか(受援体制整備)

・県が要請し、派遣されてきた外部支援に対応できるか(受援体制整備)

●支援県

近接の自治体との連携と役割分担・被災県との連絡調整

【課題】 情報収集と発信(方法・対象)

【目標】 ・被災地自治体が機能復旧に注力できるように必要な支援を想定し、自発的に支援体制を整えることができるか

・連携する自治体間の連絡調整(コーディネート)を行う役割を設定することができるか

・自治体ごとに被災地からの距離により役割を設定することができるか

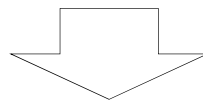
・役割に応じた物的支援、人員派遣・活動ができるか



参加者：中部ブロック自治体(三重県、岐阜県、岐阜市、愛知県、豊橋市、豊田市、岡崎市、富山県、石川県、金沢市、福井県)
兵庫県、三重県内市町(四日市市、津市、南伊勢町)、近隣獣医師会(三重県、岐阜県、愛知県、富山県、石川県、福井県)
三重県動物愛護推進員、三重県動物愛護管理推進協議会、環境省
専門家：一般財団法人ペット災害対策推進協会 沼田 一三氏
公益社団法人東京都獣医師会(特定非営利活動法人アニイス) 平井 潤子氏
三重大学大学院工学研究科 川口 淳氏

広域支援・受援体制整備に係るモデル図上訓練について

実施ブロック (実施自治体)	実施日	訓練内容
四国ブロック (徳島県)	平成29年11月14日	南海トラフ地震の際の津波を想定し、図上訓練
九州ブロック (熊本県)	平成29年11月22日	平成28年に発生した熊本地震を振り返り、図上訓練
中部ブロック (三重県)	平成29年12月22日	南海トラフ地震を想定し、図上訓練



3ブロックによる図上訓練による課題

- 発災時には行政頼みではなく、飼い主自らが災害時対応を行う必要があることを啓発し、飼い主の意識を高める必要がある。
- 事前に細かなこと（支援物資の仕分け、運搬方法等）まで決めておくことが必要である。
- 県庁等の統率を行う主体が被災した場合の対処方法について事前に協議しておく必要がある。
- 「動物救援本部」について早急に立ち上げることが出来る仕組みを構築する必要がある。
- 「動物救護本部」が立ち上がるまでの間、支援物資の情報発信等の事務代行を担うことについて、関係機関と協議しておく必要がある。
- 市町村における支援・受援体制の構築と、避難所運営マニュアルの整備が必要である。
- ボランティア、関係団体等との連携体制の構築と役割分担をしておく必要がある。